

口は健康のもと Vol.78 若さは口もとにあり

最近の若い女性は「小顔」に憧れて顎(あご)を小さく見せようとしています。そうすることによって顔が幼く見え、可愛らしさが出てくるからでしょう。

ところが欧米では、瓜実顔(うりざねかお)よりも、角張った顔のほうが、自身の考えをしっかりと持つ強い女性に見える、好感を持たれるらしいのです。文化的背景によって、顔かたちの好みに違いが生じるから面白い。

人は顎の大きさの見え方で、年齢や顔のイメージが変わることを無意識のうち知っています。たとえばほとんどの歯を失くした高齢者は、鼻から下の顎の長さが短くなって童顔に見えます。

子どもから大人への顔の変化は、乳幼児の小さい顎が成長するに伴い、思春期を経て前下方に伸び、顎の角のところが発達することで起きます。

顔の成長は、10歳の時に前後、左右、垂直の3方向で、成人量の90%に達しています。この後、残された成長を制御しながら、歯を移動したり、顎の位置を変えたりして、子どもの矯正歯科治療が行われます。

若々しく生き生きとした顔を維持するためには、働き盛りだったころの鼻から下の顎の長さを保つことが重要です。歯を大切に使い、健康な口もとでいることが、顔の若さの秘訣といえるでしょう。



奥羽大学歯学部附属病院
矯正歯科 教授 氷室 利彦

